

2022 年度（令和 4 年度）

シラバス

理学療法学科 夜間部

履正社国際医療スポーツ専門学校

開講時期	1年生 昼・夜間部 前期		分野	基礎	単位(時間)	2(30)
科目名	医療倫理学		担当教員	吉本 陵		
			実務経験			
実務内容						
授業概要	医療従事者が行うケアに関する問題を倫理的な観点から考察する。					
達成目標	医療現場で生じる倫理的な問題に対する自らの考えを論理的に表現できるようになること。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	ガイダンス&イントロダクション	事後:ガイダンスの内容に沿って今後の学習計画を立てる。			1
	2	倫理学の視点	事後:授業中課題を復習する。			1
	3	患者の痛みに対するケア1	事後:授業中課題を復習する。			1
	4	患者の痛みに対するケア2	事後:授業中課題を復習する。			1
	5	言葉の喪失に対するケア1	事後:授業中課題を復習する。			1
	6	言葉の喪失に対するケア2	事後:授業中課題を復習する。			1
	7	生活の中のケア1	事後:授業中課題を復習する。			1
	8	生活の中のケア2	事後:授業中課題を復習する。			1
	9	生活の中のケア3	事後:授業中課題を復習する。			1
	10	傾聴としてのケア1	事後:授業中課題を復習する。			1
	11	傾聴としてのケア2	事後:授業中課題を復習する。			1
	12	ケアとしての障害受容	事後:授業中課題を復習する。			1
	13	障害受容の再考1	事後:授業中課題を復習する。			1
	14	障害受容の再考2	事後:授業中課題を復習する。			1
	15	障害受容の再考3	事後:全体を振り返り、分からないところを解消する。			1
授業方法	講義を基本とし、適宜グループワークを組み込みます。					
評価方法	論述形式の試験の結果に、グループワークへの参加度および授業態度を加味して評価します。					
テキスト	適宜配布します。					
参考文献	適宜指示します。					
履修上の注意事項	私語、及び他の受講者の迷惑になる態度・行為は厳禁。					

開講時期	1年生 昼・夜間部 後期		分野	基礎	単位(時間)	2(30)
科目名	心理学		担当教員	安田 傑		
			実務経験			
実務内容						
授業概要	心についての学問は、思想を中心とした「哲学」の範疇として長い歴史を有しています。しかし、その心について、実験による科学的検証が可能となった「心理学」は、今から約140年前にようやく成立した新しい学問です。1年生の「心理学」では、心の性質について科学的にはどのように解明されているのかを学び、2年生で学ぶ悩みを抱えた人への心理学の応用領域である「臨床心理学」へとつなげることを目的とします。					
達成目標	1. 「心理学」と「臨床心理学」の歴史的背景、そして初期の理論である精神分析の考え方を理解できる。 2. 発達に伴う心の変化に関する諸理論を理解できる。 3. 経験に基づく変化(学習)と、その基盤となる記憶の性質を理解できる。 4. ストレスの影響、特に死や障害に直面した人間の心理的過程を理解できる。 5. 人間の個人差(パーソナリティ)に関する諸理論を理解できる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	心理学の歴史・学問としての全体像	事前:心に関する様々な俗説に触れておく 事後:心理学と臨床心理学の違いについて復習		1	
	2	フロイトの心の構造理論	事前:無意識についての予習 事後:心の3領域について復習		1	
	3	精神力動的理論	事前:フロイトの理論の復習 事後:ユングの理論の復習		1	
	4	防衛機制	事前:自我の機能について復習 事後:防衛機制に関する情報収集		1	
	5	発達心理学1(エリクソンの理論--乳幼児～幼児期後期)	事前:自分の過去を振り返る 事後:自分の過去をエリクソンの理論で理解する		1	
	6	発達心理学2(エリクソンの理論--学童期～青年期)	事前:今の自分の悩みをまとめる 事後:今の悩みをエリクソンの理論で理解する		1	
	7	発達心理学3(エリクソンの理論--成人期～老年期)	事前:エリクソンの理論の予復習		1	
	8	発達心理学4(ピアジェの理論・ボウルビーの理論)	事前:乳幼児に関する様々な情報を集める 事後:集めた情報を、ピアジェやボウルビーの理論で理解する		1	
	9	学習心理学(古典的条件づけ・オペラント条件づけ)	事前:行動主義の歴史について復習		1	
	10	認知心理学(記憶)	事前:学習の仕組みについて復習		1	
	11	ストレスと、その対処法	事前:自律神経系の仕組みについて復習		1	
	12	死や障害の受容における心理過程	事前:防衛機制とストレスについて復習		1	
	13	パーソナリティ理論(類型論)	事前:自らの性格に関し、他者から意見を集める 事後:集めた意見を類型論で理解する		1	
	14	パーソナリティ理論(特性論)	事前:類型論の復習 事後:授業内で実施した心理テストを整理する		1	
	15	まとめ	事前:これまでの心理学の授業内容を総復習		1	
授業方法	板書を中心とした講義を行う。また、必要に応じて動画上映やレジュメ配布を行う。					
評価方法	定期試験(100%)					
テキスト	石田彰/他編著 『臨床心理学用語辞典』 オーム社					
参考文献						
履修上の注意事項						

開講時期	1年生 昼・夜間部 前期	分野	基礎	単位(時間)	2(30)
科目名	表現論	担当教員	清水 浩之		
		実務経験	○		
実務内容	病院勤務(理学療法士)として臨床				
授業概要	「表現すること」を通して、他者とのコミュニケーションスキルを構築する。				
達成目標	相手の情報を得るために、傾聴などを利用しながらコミュニケーションを図ることができる。 得られた情報をふまえ、自身の考えを取りまとめることができる。 事実と自身の考えを分けながら、文章・口頭などで表出することができる。				
	学習内容等		事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	オリエンテーションコミュニケーションとは	事前:シラバスの確認 事後:当日の復習	1	
	2	コミュニケーション実践Ⅰ	事前:前回の復習 事後:当日の復習	1	
	3	コミュニケーション実践Ⅰ発表	事前:前回の復習 事後:当日の復習	1	
	4	コミュニケーション実践Ⅰ振り返り	事前:前回の復習 事後:当日の復習	1	
	5	一般的な社会的マナー	事前:前回の復習 事後:当日の復習	1	
	6	コミュニケーション実践Ⅱ	事前:前回の復習 事後:当日の復習	1	
	7	コミュニケーション実践Ⅱ発表	事前:前回の復習 事後:当日の復習	1	
	8	コミュニケーション実践Ⅱ振り返り	事前:前回の復習 事後:当日の復習	1	
	9	コミュニケーションスキル	事前:前回の復習 事後:当日の復習	1	
	10	コミュニケーション実践Ⅲ	事前:前回の復習 事後:当日の復習	1	
	11	コミュニケーション実践Ⅲ発表	事前:前回の復習 事後:当日の復習	1	
	12	コミュニケーション実践Ⅲ振り返り	事前:前回の復習 事後:当日の復習	1	
	13	コミュニケーション実践Ⅳ	事前:前回の復習 事後:当日の復習	1	
	14	コミュニケーション実践Ⅳ発表	事前:前回の復習 事後:当日の復習	1	
	15	コミュニケーション実践Ⅳ振り返り	事前:前回の復習 事後:当日の復習	1	
授業方法	講義、体験、振り返りを通して学習する。				
評価方法	出席率、レポート				
テキスト	なし				
参考文献	なし				
履修上の 注意事項					

開講時期	1年生 昼・夜間部 前期		分野	基礎	単位(時間)	2(30)
科目名	基礎ゼミナール I		担当教員	川瀬 和太、他		
			実務経験			
実務内容						
授業概要	・より有意義な専門学生生活を送るために、学生生活全般のオリエンテーション、ICT教育、グループワークを中心に実施する。					
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・4年間の学生生活をイメージできる ・計画的な学習計画を立案できる ・自己学習のためのPC操作ならびにネットリテラシー習得 					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	学校・学科説明	事後: 配布資料、授業内容等を復習		1	
	2	学校・学科説明	事後: 配布資料、授業内容等を復習		1	
	3	ICT教育 ①	事後: 配布資料、授業内容等を復習		1	
	4	教育オリエンテーション	事後: 配布資料、授業内容等を復習		1	
	5	ICT教育 ②	事後: 配布資料、授業内容等を復習		1	
	6	学内見学	事後: 配布資料、授業内容等を復習		1	
	7	ICT教育 ③	事後: 配布資料、授業内容等を復習		1	
	8	ICT教育 ④	事後: 配布資料、授業内容等を復習		1	
	9	ICT教育 ⑤	事後: 配布資料、授業内容等を復習		1	
	10	入学後試験	事後: 配布資料、授業内容等を復習		1	
	11	ICT教育 ⑥	事後: 配布資料、授業内容等を復習		1	
	12	ICT教育 ⑦	事後: 配布資料、授業内容等を復習		1	
	13	発表会	事後: 配布資料、授業内容等を復習		1	
	14	各学生と面談	事後: 面談内容を踏まえ、自己の振り返り		1	
	15	各学生と面談	事後: 面談内容を踏まえ、自己の振り返り		1	
授業方法	オリエンテーション・グループワーク					
評価方法	出席率					
テキスト	随時テキスト配布					
参考文献						
履修上の注意事項						

開講時期	1年生 昼・夜間部 前期		分野	基礎	単位(時間)	2(30)
科目名	基礎ゼミナールⅡ		担当教員	川瀬 和太、他		
			実務経験			
実務内容						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・与えられた課題に対し、自己にて不明点等を調べ学習する。 ・課題に対して与えられたフィードバックを参考に、学習の方法などを振り返る。 					
達成目標	・学習習慣の定着化					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	少人数学習	事前:教科書の予習 事後:教科書を復習		1	
	2	少人数学習	事前:教科書の予習 事後:教科書を復習		1	
	3	少人数学習	事前:教科書の予習 事後:教科書を復習		1	
	4	少人数学習	事前:教科書の予習 事後:教科書を復習		1	
	5	少人数学習	事前:教科書の予習 事後:教科書を復習		1	
	6	少人数学習	事前:教科書の予習 事後:教科書を復習		1	
	7	少人数学習	事前:教科書の予習 事後:教科書を復習		1	
	8	少人数学習	事前:教科書の予習 事後:教科書を復習		1	
	9	少人数学習	事前:教科書の予習 事後:教科書を復習		1	
	10	少人数学習	事前:教科書の予習 事後:教科書を復習		1	
	11	解剖学試験前試験	事前:教科書の予習 事後:教科書を復習		1	
	12	解剖学試験前試験	事前:教科書の予習 事後:教科書を復習		1	
	13	解剖学・生理学・運動学に対する講義、試験	事前:教科書の予習 事後:教科書を復習		1	
	14	解剖学・生理学・運動学に対する講義、試験	事前:教科書の予習 事後:教科書を復習		1	
	15	解剖学・生理学・運動学に対する講義、試験	事前:教科書の予習 事後:教科書を復習		1	
授業方法	課題に対する学習並びに提出、フィードバック					
評価方法	出席率					
テキスト						
参考文献						
履修上の 注意事項						

開講時期	1年生 昼・夜間部 前期		分野	基礎	単位(時間)	2(30)
科目名	栄養学		担当教員	酒井 恵		
			実務経験	○		
実務内容	病院勤務(管理栄養士)					
授業概要	情報社会ではあるけれども情報に流されず、栄養の基本の「キ」を知り、理学療法を行う上でも適切なアドバイスができるようにする。					
達成目標	栄養学の基礎・主な病態栄養学の基礎を理解し、簡単でも良いのでアドバイスができるようにする。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	リハビリテーションにおける栄養の知識の重要性	特になし			
	2	栄養の基礎	事後:復習			1
	3	五大栄養素の役割①(炭水化物)	事後:復習			1
	4	五大栄養素の役割②(たんぱく質)	事後:復習			1
	5	五大栄養素の役割③(脂質)	事後:復習			1
	6	五大栄養素の役割④(ビタミン)	事後:復習			1
	7	五大栄養素の役割⑤(ミネラル)	事後:復習			1
	8	主な病態の栄養学①メタボリックシンドローム	事後:病態の基礎の復習			1
	9	主な病態の栄養学②糖尿病	事後:病態の基礎の復習			1
	10	主な病態の栄養学③高血圧・脳卒中	事後:病態の基礎の復習			1
	11	主な病態の栄養学④脂質異常症	事後:病態の基礎の復習			1
	12	主な病態の栄養学⑤廃用症候群	事後:病態の基礎の復習			1
	13	ダイエット	事後:病態の基礎の復習			1
	14	スポーツ栄養学入門	事後:病態の基礎の復習			1
	15	まとめ	事後:栄養学の総復習			1
授業方法	テキスト・パワーポイント・補足資料					
評価方法	テスト・出席点・授業態度					
テキスト	杉山英子/他著 『基礎栄養学』 化学同人 内山靖/他編 『リハベーシック 生化学・栄養学』 医歯薬出版					
参考文献						
履修上の注意事項	居眠り頻度の高い生徒は最終点数が出た時点で1~5点の減点とする。					

開講時期	1年生 昼・夜間部 前期		分野	基礎	単位(時間)	2(30)
科目名	英語		担当教員	土屋 素明		
			実務経験			
実務内容						
授業概要	1. 一般科学および基礎医学を中心とした専門英語及びその使用法の習得。 2. オーディオ教材を使用したスピーキング・リスニングトレーニングと英語表現。 3. 医療現場における英会話。					
達成目標	1. 一般科学、生理学、解剖学を中心に、基礎医学関連の専門用語の正確な発音とボキャブラリー向上。 2. スピーキング及びリスニング能力を中心に、基礎的な英語コミュニケーション能力の向上。					
			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)			
授 業 計 画	1	導入、身体英単語・英語学力試験				
	2	科学・医学英単語・英語表現・コミュニケーション	事前:英単語試験準備 事後:英語表現・リスニング			1
	3	栄養学英単語・英語表現・コミュニケーション	事前:英単語試験準備 事後:英語表現・リスニング			1
	4	解剖学英単語・英語表現・コミュニケーション	事前:英単語試験準備 事後:英語表現・リスニング			1
	5	細胞英単語・英語表現・コミュニケーション	事前:英単語試験準備 事後:英語表現・リスニング			1
	6	組織英単語・英語表現・コミュニケーション	事前:英単語試験準備 事後:英語表現・リスニング			1
	7	骨組織英単語・英語表現・コミュニケーション	事前:英単語試験準備 事後:英語表現・リスニング			1
	8	軸骨格1英単語・英語表現・コミュニケーション	事前:英単語試験準備 事後:英語表現・リスニング			1
	9	軸骨格2英単語・英語表現・コミュニケーション	事前:英単語試験準備 事後:英語表現・リスニング			1
	10	付属肢骨格1英単語・英語表現・コミュニケーション	事前:英単語試験準備 事後:英語表現・リスニング			1
	11	付属肢骨格2英単語・英語表現・コミュニケーション	事前:英単語試験準備 事後:英語表現・リスニング			1
	12	関節英単語・英語表現・コミュニケーション	事前:英単語試験準備 事後:英語表現・リスニング			1
	13	筋組織英単語・英語表現・コミュニケーション	事前:英単語試験準備 事後:英語表現・リスニング			1
	14	筋肉系英単語・英語表現・コミュニケーション	事前:英単語試験準備 事後:英語表現・リスニング			1
	15	骨格筋1英単語・模試	事前:英単語試験準備			1
授業方法	1. 用語の発音、スペリング、使用方法の解説、及び暗記。 2. オーディオによるスピーキングとリスニング。 3. 英語表現。					
評価方法	1. 授業中に実施する英単語試験 2. 質問、発言、発声など積極的な授業態度 3. 筆記試験					
テキスト	清水雅子/他編 『リハビリテーション英語の基本用語と表現』 MEDICAL VIEW					
参考文献	配布資料					
履修上の 注意事項	1. 毎回実施される英単語試験の為の暗記。 2. 積極的な態度で授業に臨み、質問や発言は適時行うこと。					

開講時期	1年生 昼・夜間部 後期		分野	基礎	単位(時間)	2(30)
科目名	医学英語		担当教員	土屋 素明		
			実務経験			
実務内容						
授業概要	1. リハビリテーションを中心とした専門英語の習得と、使用法の習得。 2. 英文による健康及び基礎医学関連資料の読解。 3. 臨床現場で必要となる英語表現や英語を使ったコミュニケーション方法。					
達成目標	1. 基礎医学、特にリハビリテーションに関する重要基礎英語の習得。 2. 英文による基礎医学資料を読解出来る。 3. 臨床現場で必要となる英語表現を理解し、使える。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	骨格筋2英単語・英文読解方法について	事前:英単語試験準備 事後:読解方法の復習	1		
	2	骨格筋3英単語・基礎英文の読解	事前:英単語試験準備 事後:読解資料の復習	1		
	3	神経系英単語・基礎英文の読解	事前:英単語試験準備 事後:読解資料の復習	1		
	4	循環器系英単語・基礎英文の読解	事前:英単語試験準備 事後:読解資料の復習	1		
	5	消化器系英単語・医学関連資料の読解	事前:英単語試験準備 事後:読解資料の復習	1		
	6	内分泌・呼吸器系英単語・医学関連資料の読解	事前:英単語試験準備 事後:読解資料の復習	1		
	7	リハビリ関連英単語・医学関連資料の読解	事前:英単語試験準備 事後:読解資料の復習	1		
	8	リハビリ関連英単語・医学関連資料の読解	事前:英単語試験準備 事後:読解資料の復習	1		
	9	リハビリ関連英単語・医学関連資料の読解	事前:英単語試験準備 事後:読解資料の復習	1		
	10	リハビリ関連英単語・医学関連資料の読解	事前:英単語試験準備 事後:読解資料の復習	1		
	11	リハビリ関連英単語・医学関連資料の読解	事前:英単語試験準備 事後:読解資料の復習	1		
	12	リハビリ関連英単語・医学関連資料の読解	事前:英単語試験準備 事後:読解資料の復習	1		
	13	骨格系英単語・医学関連資料の読解	事前:英単語試験準備 事後:読解資料の復習	1		
	14	骨格筋英単語・医学関連資料の読解	事前:英単語試験準備 事後:読解資料の復習	1		
	15	ケーススタディ・模試	事前:英単語試験準備	1		
授業方法	1. 用語の発音、スペリング、使用方法の解説、及び暗記。 2. 英語文献の講読、読解及びディスカッション。					
評価方法	1. 授業中に実施する英単語試験 2. 質問、発言、発声など積極的な授業態度 3. 筆記試験					
テキスト	三木貴弘/他著 『PO・OTが書いたリハビリテーション英会話』					MEDICAL VIEW
参考文献						
履修上の 注意事項	1. 毎回実施される英単語試験の為の暗記。 2. 積極的な授業態度で授業に臨み、質問や発言は適時行うこと。					

開講時期	1年生 昼・夜間部 後期		分野	基礎	単位(時間)	2(30)
科目名	健康学概論		担当教員	渡邊 有実		
			実務経験			
実務内容						
授業概要	健康・体づくりの理論的背景を知り、「健康」に関する基礎的理論に理解を深める。また、現代の社会・環境を考慮した「健康」の創造について理解を深める。					
達成目標	健康についての概要を説明できる 現代の社会環境を考慮した上で、望ましい身体を創造するため方法を考案することができる					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	健康の概念	事後:講義の復習			1
	2	健康を支える人的支援	事後:講義の復習			1
	3	健康とライフステージ	事後:講義の復習			1
	4	健康とライフステージ	事後:講義の復習			1
	5	健康と自然災害	事後:講義の復習			1
	6	健康と疾病予防	事後:講義の復習			1
	7	健康とストレス	事後:講義の復習			1
	8	健康と管理方法の実際	事後:講義の復習			1
	9	健康と管理方法の実際	事前:健康管理方法の立案 事後:講義の復習			1
	10	健康指導の実際	事後:講義の復習			1
	11	健康指導の実際(個人)	事前:健康指導方法の立案 事後:講義の復習			1
	12	健康指導の実際(個人)	事前:健康指導方法の立案 事後:講義の復習			1
	13	健康指導の実際(集団)	事前:健康指導方法の立案 事後:講義の復習			1
	14	健康指導の実際(集団)	事前:健康指導方法の立案 事後:講義の復習			1
	15	まとめ				
授業方法	座学及び実践により実施。毎時配布する資料により授業を進行する。					
評価方法	終期試験					
テキスト	なし。適宜、必要に応じて資料を配布する。					
参考文献	なし。					
履修上の 注意事項						

開講時期	1年生 昼・夜間部 前期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	解剖学 I		担当教員	安部 みき子		
			実務経験			
実務内容						
授業概要	運動器は、骨、関節・靭帯学と筋で構成されているが、筋の支配神経を含んだ内容の講義となる。骨学は、骨格の模型を用いて講義をする。関節・靭帯学は骨の形態を理解した上で関節の運動を考える。筋学は運動方向や支配神経を理解したうえで、筋や骨格で構成される間隙などを把握し、神経や脈管などとの関係を、局所解剖学として講義する。					
達成目標	リハビリテーションにおいて、さまざまな原因でおこる運動障害の機能を回復させることが重要である。運動器の基礎である骨や筋を理解すると同時に、支配神経ならびに脈管との関係を把握することを目的とする。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	解剖学ならびに運動器の総論	事前:解剖学の本をとにかく開いてみる こと。			1
	2	体幹の骨	事前:骨学実習の手引きの体幹の骨 の範囲を読み込むこと。			1
	3	体幹の骨および関節・靭帯	事前:骨学実習の手引きの体幹の骨 の範囲を読み込むこと。			1
	4	体幹の関節・靭帯および筋	事前:教科書に記載されている筋の区 分を把握すること。			1
	5	体幹の筋	事前:筋は支配神経が重要であるか ら、総論の神経を復習しておくこと			1
	6	上肢の骨	事前:骨学実習の手引きの上肢骨の 範囲を読み込むこと。			1
	7	上肢の骨および関節・靭帯	事前:骨学実習の手引きの上肢骨の 範囲を読み込むこと。			1
	8	上肢の関節・靭帯および筋	事前:教科書に記載されている筋の区 分を把握すること。			1
	9	上肢の筋	事前:筋は支配神経が重要であるか ら、総論の神経を復習しておくこと			1
	10	下肢の骨	事前:骨学実習の手引きの下肢骨の 範囲を読み込むこと。			1
	11	下肢の骨および関節・靭帯	事前:骨学実習の手引きの下肢骨の 範囲を読み込むこと。			1
	12	下肢の関節・靭帯および筋	事前:教科書に記載されている筋の区 分を把握すること。			1
	13	下肢の筋	事前:筋は支配神経が重要であるか ら、総論の神経を復習しておくこと			1
	14	頭部の骨	事前:骨学実習の手引きの頭骨の範 囲を読むこと。脳神経の復習。			1
	15	頭部の骨および筋	事前:骨学実習の手引きの頭骨の範 囲を読むこと。脳神経の復習。			1
授業方法	スライドと模型を用いた講義。					
評価方法	コース終了時に行われる筆記試験の成績による。合格には総合して、60%以上の成績が必要である。					
テキスト	森於菟/他著 『分担解剖学I』 金原出版 寺田春水/他著 『骨学実習の手びき』 南山堂					
参考文献	プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系 医学書院 ネッター/著 『ネッター解剖学図譜』 丸善 伊藤隆/著 『解剖学講義』 南山堂					
履修上の 注意事項	予習をしっかりとすること。					

開講時期	1年生 昼・夜間部 前期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	解剖学Ⅱ		担当教員	池田 一雄		
			実務経験			
実務内容						
授業概要	本科目では、解剖学、組織学の形態学を中心にした細胞、組織、臓器の成り立ち、ならびにその基本的な機能について学ぶ。					
達成目標	1 細胞の構造と機能を説明できる。 2 上皮組織の構造と機能を説明できる。 3 間葉組織の構造と機能を説明できる。 4 臓器の構造と機能を説明できる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	解剖学総論	事後:テキストの関連内容と配布プリントの復習			1
	2	細胞・組織学総論①	事後:テキストの関連内容と配布プリントの復習			1
	3	細胞・組織学総論②	事後:テキストの関連内容と配布プリントの復習			1
	4	呼吸器①	事後:テキストの関連内容と配布プリントの復習			1
	5	呼吸器②	事後:テキストの関連内容と配布プリントの復習			1
	6	消化器①	事後:テキストの関連内容と配布プリントの復習			1
	7	消化器②	事後:テキストの関連内容と配布プリントの復習			1
	8	消化器③	事後:テキストの関連内容と配布プリントの復習			1
	9	内分泌器	事後:テキストの関連内容と配布プリントの復習			1
	10	腎泌尿器	事後:テキストの関連内容と配布プリントの復習			1
	11	感覚器・皮膚	事後:テキストの関連内容と配布プリントの復習			1
	12	生殖器①	事後:テキストの関連内容と配布プリントの復習			1
	13	生殖器②	事後:テキストの関連内容と配布プリントの復習			1
	14	発生学	事後:テキストの関連内容と配布プリントの復習			1
	15	総まとめ	事後:テキストの関連内容と配布プリントの復習			1
授業方法	PCによるプレゼンテーション					
評価方法	筆記試験					
テキスト	坂井建雄/他編 『人体の正常構造と機能』 日本医事新報社					
参考文献						
履修上の注意事項						

開講時期	1年生 昼・夜間部 前期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	解剖学Ⅲ		担当教員	木山 博資		
			実務経験			
実務内容						
授業概要	中枢神経系と末梢神経系、および循環器系についての構造と機能について学ぶ。また、それらの基本的な病態について理解する。					
達成目標	(1)脳や脊髄の外観と内部構造について説明できる。(2)脳や脊髄の求心性・遠心性線維連絡と機能について説明できる。(3)脳神経や脊髄神経の知覚・運動・自律機能について説明できる。(4)心臓や血管の構造、繋がりについて理解し、その病態についても説明できる。(5)リンパ管リンパ節の構造やネットワークについて説明できる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	中枢神経系の発生・外観、神経組織学	事前:ニューロンとグリアを教科書で理解する 事後:脳と脊髄の概観、脳室の復習		1	
	2	大脳、大脳基底核、辺縁系	事前:大脳、大脳基底核、辺縁系を教科書で予習 事後:大脳各部の名称機能、海馬、線条体の復習		1	
	3	間脳、中脳	事前:間脳と中脳を教科書で予習 事後:大脳各部の名称機能、海馬、線条体の復習		1	
	4	橋・小脳・延髄	事前:橋・小脳・延髄を教科書で予習 事後:橋・小脳を介する運動機能、延髄諸核の復習		1	
	5	脊髄	事前:脊髄を教科書で予習 事後:脊髄灰白質の機能、白質伝導路の復習		1	
	6	求心性遠心性伝導路	事前:伝導路を教科書で予習 事後:各種感覚伝導路と運動伝導路の復習		1	
	7	中枢神経系まとめ	事後:各種感覚伝導路と運動伝導路の復習		1	
	8	末梢神経系総論・脳神経1	事前:末梢神経と脳神経を教科書で予習 事後:脳神経の復習		1	
	9	脳神経2、脊髄神経1(頸神経叢)	事前:脳神経と脊髄神経を教科書で予習 事後:脳神経の復習、頸神経叢の復習		1	
	10	脊髄神経2(腕神経叢、腰神経叢、仙骨神経叢)	事前:脊髄神経を教科書で予習 事後:各神経叢の復習		1	
	11	脊髄神経2(自律神経系)、末梢神経系まとめ	事前:自律神経を教科書で予習 事後:自律神経の復習、末梢神経の復習		1	
	12	脈管総論と心臓の外観	事前:血管の構造と心臓の外観を教科書で予習 事後:動脈と静脈の違い、心臓の栄養血管の復習		1	
	13	心臓の内面と機能、脳血管、頭頸部血管	事前:心臓の構造と脳血管を教科書で予習 事後:心臓の内面構造・弁、脳血管の復習		1	
	14	腹部血管、四肢の血管とリンパ系	事前:臓器の支配血管、四肢血管を教科書で予習 事後:臓器血管・四肢血管、リンパ系の復習		1	
	15	脈管系まとめ	事後:心臓、血管、リンパ系の総復習		1	
授業方法	プリント資料を配布し、それに沿って講義する。適宜演習をおこなう。					
評価方法	終了時に筆記試験をおこなう。60%以上の成績を合格とする。					
テキスト	木山博資/他編 『人体の解剖生理学』 金芳堂					
参考文献						
履修上の 注意事項	特になし					

開講時期	1年生 昼・夜間部 前期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	解剖学演習		担当教員	高橋 美和		
			実務経験	○		
実務内容	病院勤務(理学療法士)として臨床					
授業概要	理学療法士にとって必須の運動器系(骨・関節・筋)の構造を中心に、人体の構造を学ぶ。骨の名称や筋の名称、筋の作用や支配神経とその機能の学習を深める。					
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・全身の骨格の名称、位置関係が答えられる ・骨の各部位の名称がわかる ・関節運動の方向が理解できる ・全身の筋の名称・起始・停止・作用がわかる 					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	オリエンテーション・解剖学総論	事前:教科書を予習 事後:配布資料・教科書を復習		1	
	2	骨・骨格	事前:教科書の予習 事後:配布資料・教科書を復習		1	
	3	上肢の骨	事前:教科書の予習 事後:配布資料・教科書を復習		1	
	4	上肢の関節	事前:教科書の予習 事後:配布資料・教科書を復習		1	
	5	上肢帯の筋	事前:教科書の予習 事後:配布資料・教科書を復習		1	
	6	上腕の筋	事前:教科書の予習 事後:配布資料・教科書を復習		1	
	7	前腕の筋	事前:教科書の予習 事後:配布資料・教科書を復習		1	
	8	下肢の骨	事前:教科書の予習 事後:配布資料・教科書を復習		1	
	9	下肢の関節	事前:教科書の予習 事後:配布資料・教科書を復習		1	
	10	下肢帯の筋	事前:教科書の予習 事後:配布資料・教科書を復習		1	
	11	大腿の筋	事前:教科書の予習 事後:配布資料・教科書を復習		1	
	12	下腿の筋	事前:教科書の予習 事後:配布資料・教科書を復習		1	
	13	上肢・下肢の骨・筋の確認(骨・筋)	事前:教科書の予習 事後:配布資料・教科書を復習		1	
	14	体幹の骨・関節	事前:教科書の予習 事後:配布資料・教科書を復習		1	
	15	体幹の筋	事前:配布資料の復習 事後:配布資料・教科書を復習		1	
授業方法	教科書・骨模型・お互いの身体を使って、グループワークでお互いに学習する。					
評価方法	出席率・小テスト(実技含む)・筆記試験					
テキスト	野村巖/編 『標準理学療法学・作業療法学 解剖学』 医学書院					
参考文献	坂井建雄/他監訳 『プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論運動器系』 医学書院 町田志樹/著 『PTOTビジュアルテキスト 解剖学』 羊土社					
履修上の 注意事項	専門的な用語が多く、学習範囲も広いため、その都度覚える習慣をつけること。					

開講時期	1年生 昼・夜間部 前期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	生理学 I		担当教員	井口 祥平		
			実務経験	○		
実務内容	クリニック(理学療法士)として臨床					
授業概要	生理学は理学療法士にとって解剖学、運動学と並んで基本となる科目である。生理学は生体のメカニズム、機能を知る学問であり、人の身体活動において、身体の諸機関がどのように機能しているのかを学ぶ。					
達成目標	1.人体を構成する細胞、組織、器目、器目系の関係を理解する。 2.細胞の機能を説明できる。 3.末梢神経、中枢神経系の機能を説明できる。 4.筋組織の機能について説明できる。 5.感覚の機能について説明できる。 6.随意運動の発現について説明できる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	オリエンテーション	事後:理学療法士が生理学を学ぶ意味を整理する。		1	
	2	細胞生理	事前:細胞の基本構造について予習する。 事後:授業中に伝える学習ポイントを整理する。		1	
	3	神経の構造と機能	事前:神経の基本構造について予習する。 事後:授業中に伝える学習ポイントを整理する。		1	
	4	神経の興奮伝導	事前:細胞膜電位について予習する。 事後:授業中に伝える学習ポイントを整理する。		1	
	5	末梢神経	事前:人の神経系の分類について予習する。 事後:授業中に伝える学習ポイントを整理する。		1	
	6	中枢神経系1	事前:中枢神経の基本構造について予習する。 事後:授業中に伝える学習ポイントを整理する。		1	
	7	中枢神経系2	事前:中枢神経の基本構造について予習する。 事後:授業中に伝える学習ポイントを整理する。		1	
	8	中枢神経系3	事前:中枢神経の基本構造について予習する。 事後:授業中に伝える学習ポイントを整理する。		1	
	9	筋と骨	事前:筋組織の基本構造について予習する。 事後:授業中に伝える学習ポイントを整理する。		1	
	10	筋と骨	事前:骨組織の基本構造について予習する。 事後:授業中に伝える学習ポイントを整理する。		1	
	11	感覚1	事前:感覚器の基本構造について予習する。 事後:授業中に伝える学習ポイントを整理する。		1	
	12	感覚2	事前:感覚器の基本構造について予習する。 事後:授業中に伝える学習ポイントを整理する。		1	
	13	随意運動の発現	事前:随意運動について予習する。 事後:授業中に伝える学習ポイントを整理する。		1	
	14	随意運動の発現	事前:随意運動について予習する。 事後:授業中に伝える学習ポイントを整理する。		1	
	15	まとめ	事前:細胞の基本構造について予習する。 事後:授業中に伝える学習ポイントを整理する。		1	
授業方法	講義形式(パワーポイントとプリント)					
評価方法	筆記試験、授業態度					
テキスト	岡田隆夫/他著 『標準理学療法学・作業療法学 生理学』 医学書院					
参考文献	本間研一/監 『標準生理学』 医学書院					
履修上の 注意事項	理学療法士にとって基礎となる学問であるため、真剣に受講すること					

開講時期	1年生 昼・夜間部 後期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	生理学Ⅱ		担当教員	井口 祥平		
			実務経験	○		
実務内容	クリニック(理学療法士)として臨床					
授業概要	生理学は理学療法士にとって解剖学、運動学と並んで基本となる科目である。生理学は生体のメカニズム、機能を知る学問であり、人の身体活動において、身体の諸機関がどのように機能しているのかを学ぶ。					
達成目標	1.人における血液、心臓、循環器系の役割について説明できる。 2.呼吸器系の役割について説明できる。 3.消化吸収の役割について説明できる。 4.内分泌系の役割について説明できる。 5.泌尿器系の役割について説明できる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	血液1	事前:血液の組成について予習する。 事後:授業中に伝える学習ポイントを整理する。		1	
	2	血液2	事前:血球成分の役割について予習する。 事後:授業中に伝える学習ポイントを整理する。		1	
	3	循環1	事前:心臓および血管系について予習する。 事後:授業中に伝える学習ポイントを整理する。		1	
	4	循環2	事前:血圧について予習する。 事後:授業中に伝える学習ポイントを整理する。		1	
	5	呼吸1	事前:呼吸器系について予習する。 事後:授業中に伝える学習ポイントを整理する。		1	
	6	呼吸2	事前:呼吸調整について予習する。 事後:授業中に伝える学習ポイントを整理する。		1	
	7	消化と吸収1	事前:消化器系の基本構造について予習する。 事後:授業中に伝える学習ポイントを整理する。		1	
	8	消化と吸収2	事前:消化器系の機能について予習する。 事後:授業中に伝える学習ポイントを整理する。		1	
	9	内分泌1	事前:筋組織の基本構造について予習する。 事後:授業中に伝える学習ポイントを整理する。		1	
	10	内分泌2	事前:骨組織の基本構造について予習する。 事後:授業中に伝える学習ポイントを整理する。		1	
	11	腎・泌尿器1	事前:腎臓の基本構造について予習する。 事後:授業中に伝える学習ポイントを整理する。		1	
	12	腎・泌尿器2	事前:尿生成と排泄について予習する。 事後:授業中に伝える学習ポイントを整理する。		1	
	13	生殖	事前:生殖の機能について予習する。 事後:授業中に伝える学習ポイントを整理する。		1	
	14	代謝と体温	事前:エネルギー代謝について予習する。 事後:授業中に伝える学習ポイントを整理する。		1	
	15	まとめ	事後:理学療法士が生理学を学ぶ意味を整理する。		1	
授業方法	講義形式(パワーポイントとプリント)					
評価方法	筆記試験、授業態度					
テキスト	岡田隆夫/他著 『標準理学療法学・作業療法学 生理学』 医学書院					
参考文献	本間研一/監 『標準生理学』 医学書院					
履修上の 注意事項	理学療法士にとって基礎となる学問であるため、真剣に受講すること					

開講時期	1年生 昼・夜間部 後期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	生理学Ⅲ		担当教員	井口 祥平		
			実務経験	○		
実務内容	クリニック(理学療法士)として臨床					
授業概要	生理学Ⅰ・Ⅱで学習したことを基礎に、運動によって生じる身体機能の変化を実際に測定・観察する。理学療法にとって客観的指標は極めて重要となり、測定によって得られたデータの解釈を理解することは極めて重要となる。本講義では、測定することを体験しながら生理学データを測定、読み解くことを学ぶ。					
達成目標	1.身体計測を実施し、各個人のデータと基準を比較し説明できる。 2.血圧測定の意義を理解し、説明できる。 3.体力測定の意義を理解し、説明できる。 4.心電図の意義を理解し、説明できる。 5.筋電図の意義を理解し、説明できる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	オリエンテーション / 身体計測 説明	事後:身体計測の意義を復習する		1	
	2	身体計測 測定実習	事前:身体計測の項目を予習する。 事後:得られた結果を整理する。		1	
	3	身体計測 レポート作成	事前:レポートの形式を予習する。 事後:レポートの修正、提出をする。		1	
	4	血圧測定 説明	事前:血管系の名称・機能を復習する。 事後:血圧の意義を復習する。		1	
	5	血圧測定 測定実習	事前:血圧測定の方法を予習する。 事後:得られた結果を整理する。		1	
	6	血圧測定 レポート作成	事前:レポートの形式を予習する。 事後:レポートの修正、提出をする。		1	
	7	新体力測定 説明	事前:新体力テストの方法を予習する。 事後:新体力測定の意義を復習する。		1	
	8	新体力測定 測定実習	事前:新体力テストの方法を予習する。 事後:得られた結果を整理する。		1	
	9	新体力測定 レポート作成	事前:レポートの形式を予習する。 事後:レポートの修正、提出をする。		1	
	10	心電図 説明	事前:循環器の機能解剖を復習する。 事後:心電図の意義を復習する。		1	
	11	心電図 測定実習	事前:心電図の方法を予習する。 事後:得られた結果を整理する。		1	
	12	心電図 レポート作成	事前:レポートの形式を予習する。 事後:レポートの修正、提出をする。		1	
	13	筋電図 説明	事前:筋の収縮過程について復習する。 事後:筋電図の意義を復習する。		1	
	14	筋電図 測定実習	事前:筋電図の測定方法を予習する。 事後:得られた結果を整理する。		1	
	15	筋電図 レポート作成	事前:レポートの形式を予習する。 事後:レポートの修正、提出をする。		1	
授業方法	講義、実習、レポート作成					
評価方法	レポート、後期テスト					
テキスト						
参考文献	岡田隆夫/他著 『標準理学療法学・作業療法学 生理学』 医学書院 本間研一/監 『標準生理学』 医学書院					
履修上の 注意事項	実習を実施するため、動きやすい服装で受講すること。					

開講時期	1年生 昼・夜間部 後期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	体表解剖学		担当教員	西村 壽晃		
			実務経験	○		
実務内容	鍼灸院開業 はり師、きゅう師として臨床および理学療法士として病院での臨床					
授業概要	理学療法を行う過程において「評価」は大変重要な位置を占める。また、「正確な評価」が出来なければ「効果的な治療」を対象者に提供出来ない。その「正確な評価」「効果的な治療」を実施するにおいて、対象者の身体部位を適切に触り、把握することは、基本中の基本である。 本講義において、対象者の身体部位を正確に「触診」出来るよう「骨指標」の触診を中心に、その知識と技術を学ぶ。					
達成目標	1 体表における骨・腱の指標を正確に触ることが出来る 2 同じ部位・指標でも個体差があることを把握する 3 身体に水性ペンにおいて直接投影することで身体のイメージマップを作り上げる 4 本講義においては筋の触診までは行えないが、今後、「筋の触診」を習得するに於ける基礎を作る					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	オリエンテーション 触診とは？	事前:解剖学(骨・筋・腱・靭帯)の復習		1	
	2	触診の手技、習得に必要なコツなど	事前:解剖学(骨・筋・腱・靭帯)の復習		1	
	3	骨の触診(外後頭隆起、乳様突起、C2~7・TH1棘突起)	事前:左記部位の形状等スケッチ 事後:左記部位を一人でも多く触診する		1	
	4	骨の触診(肩甲骨:内外側縁、肩甲棘、棘三角、肩峰、関節窩)	事前:左記部位の形状等スケッチ 事後:左記部位を一人でも多く触診する		1	
	5	骨の触診(腸骨稜、ASIS、PSIS、Th3、7、12、L4、S2)	事前:左記部位の形状等スケッチ 事後:左記部位を一人でも多く触診する		1	
	6	骨の触診(Th2~S2)	事前:左記部位の形状等スケッチ 事後:左記部位を一人でも多く触診する		1	
	7	骨の触診(座骨結節、大転子、膝蓋骨)、膝蓋靭帯	事前:左記部位の形状等スケッチ 事後:左記部位を一人でも多く触診する		1	
	8	骨の触診(脛骨内外側プラトー、大腿骨内外側上顆、内転筋結節)、靭帯の触診(膝関節外側副靭帯、内側副靭帯)	事前:左記部位の形状等スケッチ 事後:左記部位を一人でも多く触診する		1	
	9	骨の触診(腓骨頭、外果、脛骨前縁・後内側縁)、腱の触診(前脛骨筋腱)	事前:左記部位の形状等スケッチ 事後:左記部位を一人でも多く触診する		1	
	10	骨の触診(外果、舟状骨結節、載距突起、第5中足骨底)、腱の触診(後脛骨筋腱、長・短腓骨筋腱)	事前:左記部位の形状等スケッチ 事後:左記部位を一人でも多く触診する		1	
	11	骨の触診(烏口突起、大・小結節、結節間溝、三角筋粗面)	事前:左記部位の形状等スケッチ 事後:左記部位を一人でも多く触診する		1	
	12	骨の触診(上腕骨内・外側上顆、橈骨頭、尺骨後縁、尺骨茎状突起、肘頭)	事前:左記部位の形状等スケッチ 事後:左記部位を一人でも多く触診する		1	
	13	骨の触診(尺骨頭、リスター結節、手根骨)、腱の触診(尺・橈側手根筋筋腱、長掌筋腱、長・短母指伸筋、長母指外転筋腱)	事前:左記部位の形状等スケッチ 事後:左記部位を一人でも多く触診する		1	
	14	腱の触診(総指伸筋腱、示指伸筋腱、小指伸筋腱、上腕二頭筋腱)	事前:左記部位の形状等スケッチ 事後:左記部位を一人でも多く触診する		1	
	15	腱の触診(半腱・半膜様筋腱、大腿二頭筋腱、長趾・長母指伸筋腱、第3腓骨筋腱)	事前:左記部位の形状等スケッチ 事後:左記部位を一人でも多く触診する		1	
授業方法	講義、ほぼ実技(ポイント・コツ等の説明、デモンストレーション後にペアにて実践)、水性ペンにて身体に実際に投影する					
評価方法	筆記試験(50%)、実技試験(50%) ※実技試験において60%クリアしていない場合は、筆記・実技の合算において60%を超えていても不可とする					
テキスト	青木 隆明/監 『運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢』 青木 隆明/監 『運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹』 MEDICAL VIEW					
参考文献	河上 敬介/他編 『改訂第2版 骨格筋の形と触察法』 大峰閣					
履修上の注意事項	いつでも露出できるように原則半袖・半パン等にて臨むこと(場合によっては水着等)。 水性ペンにて直接身体に投影するため、バスタオルおよびウエットティッシュを各自で準備しておくこと					

開講時期	1年生 昼・夜間部 後期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	運動学 I		担当教員	川瀬 和大		
			実務経験	○		
実務内容	病院勤務(理学療法士)として臨床					
授業概要	前半では、生体力学や関節構造や運動の名称について解説する。 後半では、肩関節複合体、股関節、膝関節の骨運動や筋機能について説明する。					
達成目標	①運動時に各関節に加わるモーメントや筋活動について説明できる。 ②肩関節、股関節、膝関節の骨運動、筋機能について説明できる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	オリエンテーション	事前:教科書の予習 事後:配布資料、教科書を復習			1
	2	運動学という学問についての概要	事前:教科書の予習 事後:配布資料、教科書を復習			1
	3	関節の構造と種類、運動の名称、凹凸の法則について	事前:教科書の予習 事後:配布資料、教科書を復習			1
	4	生体力学について	事前:教科書の予習 事後:配布資料、教科書を復習			1
	5	筋肉の収縮様式について	事前:教科書の予習 事後:配布資料、教科書を復習			1
	6	肩関節複合体 関節と骨運動	事前:教科書の予習 事後:配布資料、教科書を復習			1
	7	肩関節複合体 関節と骨運動	事前:教科書の予習 事後:配布資料、教科書を復習			1
	8	肩関節複合体 筋機能	事前:教科書の予習 事後:配布資料、教科書を復習			1
	9	股関節 関節と骨運動	事前:教科書の予習 事後:配布資料、教科書を復習			1
	10	股関節 関節と骨運動	事前:教科書の予習 事後:配布資料、教科書を復習			1
	11	股関節 筋機能	事前:教科書の予習 事後:配布資料、教科書を復習			1
	12	膝関節 関節と骨運動	事前:教科書の予習 事後:配布資料、教科書を復習			1
	13	膝関節 関節と骨運動	事前:教科書の予習 事後:配布資料、教科書を復習			1
	14	膝関節 筋機能	事前:教科書の予習 事後:配布資料、教科書を復習			1
	15	まとめ	事前:教科書の予習 事後:配布資料、教科書を復習			1
授業方法	講義					
評価方法	終講試験、小テスト					
テキスト	中村隆一/他著 『基礎運動学』 医歯薬出版					
参考文献	嶋田智明/監訳 『筋骨格系のキネシオロジー』 医歯薬出版					
履修上の注意事項	人に説明ができるようになることを目標に、授業に取り組むこと。					

開講時期	1年生 夜間部 後期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	人間発達学		担当教員	竹下 昌宏		
			実務経験			
実務内容						
授業概要	人間の発達を胎生期から老年期に至るまでの諸期間において、身体的発達、運動発達、心理的発達を知る。 新生児期から乳・幼児期の運動発達を中心に各ライフステージでの特徴を知る。 正常発達を理解し異常発達の特徴を知る。					
達成目標	運動発達、発達検査、反射・反応を理解する。 各ライフステージでの発達の特徴を理解する。 正常発達を理解し小児疾患の特徴を捉える。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	発達概念	事前:発達概念の予習 事後:発達概念の復習		1	
	2	発達理論	事前:発達理論の予習 事後:発達理論の復習		1	
	3	発達検査	事前:発達検査の予習 事後:発達検査の復習		1	
	4	姿勢反射・反応	事前:姿勢反射・反応の予習 事後:姿勢反射・反応の復習		1	
	5	運動発達0～3ヵ月	事前:運動発達0～3ヵ月の予習 事後:運動発達0～3ヵ月の復習		1	
	6	運動発達4～6ヵ月	事前:運動発達4～6ヵ月の予習 事後:運動発達4～6ヵ月の復習		1	
	7	運動発達7～9ヵ月	事前:運動発達7～9ヵ月の予習 事後:運動発達7～9ヵ月の復習		1	
	8	運動発達10～12ヵ月	事前:運動発達10～12ヵ月の予習 事後:運動発達10～12ヵ月の復習		1	
	9	運動発達13～18ヵ月	事前:運動発達13～18ヵ月の予習 事後:運動発達の復習		1	
	10	姿勢反射・反応と6歳までの発達	事前:姿勢反射・反応と6歳までの発達の予習 事後:姿勢反射・反応と6歳までの発達の復習		1	
	11	上肢機能の発達	事前:上肢機能の発達の予習 事後:上肢機能の発達の復習		1	
	12	ADLの発達	事前:ADLの発達の予習 事後:ADLの発達の復習		1	
	13	感覚・知覚・認知・社会性の発達	事前:感覚・知覚・認知・社会性の発達の予習 事後:感覚・知覚・認知・社会性の発達の復習		1	
	14	学童・青年・成人・老年期の発達	事前:学童・青年・成人・老年期の発達の予習 事後:学童・青年・成人・老年期の発達の復習		1	
	15	まとめ	事前:各講義の要点整理 事後:人間発達学の要点整理		1	
授業方法	基本テキストに沿って授業を進めます。必要に応じて資料の提示や動画を視聴します。					
評価方法	出席率・授業態度(20%)、小テスト(20%)、期末試験(60%)					
テキスト	上杉雅之/監 『イラストでわかる人間発達学』 医歯薬出版					
参考文献	必要に応じて提示					
履修上の 注意事項	テキストに沿っての授業となりますので、予習・復習をしてください。 前回履修内容の小テストを実施します。					

開講時期	1年生 昼・夜間部 後期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	一般臨床医学		担当教員	高折 洋		
			実務経験	○		
実務内容	病院勤務(内科医)					
授業概要	医療関係の学習をするにあたって、基礎的な知識を身に着けることは極めて大切であるが、その知識が単なる知識にとどまらず、臨床の現場で実際に役立つものであることは更に重要である。本講義では、1年生ということも考慮し、基礎知識をしっかりと記憶するとともに、臨床現場の実情等も可能な範囲説明し、将来の実習更には、理学療法士として現場で勤務するにあたって、現時点でどのような知識を身に着けておく必要があるかを考慮しつつ臨床医学を学ぶ。					
達成目標	1.医学をこれから学ぶにあたって基礎的な知識を身に着ける。 2.特に臨床と直結した基礎知識の習得に重点を置く。 3.基礎知識が現場でなぜ必要かも理解する。 4.将来の理学療法実習に役立つ臨床現場の実情と雰囲気可能な範囲で理解する。 5.将来の実習や、現場での勤務に必要な医学的雑学を身に着ける。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	診察の基本 医療面接 バイタルサインの診察	事後:プリントの見直し		1	
	2	救命救急医療①(心肺蘇生法、心臓の仕組みとAED)	事前:前回プリントの見直し 事後:小テストの復習		1	
	3	一般検査、血液・生化学検査(1)検査の理解のための基礎知識	上記と同様		1	
	4	生化学検査(2)、検査理解のための疾患の基礎知識	上記と同様		1	
	5	生化学検査(3)免疫血清検査等 心電図(1)	上記と同様		1	
	6	心電図(2)、肺機能検査、骨量測定、	上記と同様		1	
	7	救命救急医療②(ショック、呼吸管理、輸液)	上記と同様		1	
	8	画像検査と脳血管障害(1) 脳の構造と働き	上記と同様		1	
	9	画像検査と脳血管障害(2)	上記と同様		1	
	10	画像検査と脳血管障害(3)	上記と同様		1	
	11	外科疾患(損傷・感染性疾患、末梢血管障害)	上記と同様		1	
	12	外科疾患(腫瘍)	上記と同様		1	
	13	薬理学と薬物療法	上記と同様		1	
	14	メタボリックシンドローム 高齢者について	上記と同様		1	
	15	高齢者の疾患	上記と同様		1	
授業方法	原則、対面講義、					
評価方法	筆記試験(80%) 受講態度等(20%)					
テキスト						
参考文献						
履修上の注意事項	毎回の小テストのを徹底的に復習し、完全に身に着ける。					

開講時期	1年生 昼・夜間部 後期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	リハビリテーション医学		担当教員	清水 浩之		
			実務経験	○		
実務内容	病院勤務(理学療法士)として臨床					
授業概要	理学療法が対象とする障害についての理解を深め、障害のメカニズムをふまえ学習する。 また、各疾患においては疾患概要から評価・検査、障害構造、リハビリテーション治療までの理解を深める。					
達成目標	障害について、各種説明することができる。 各疾患について説明することができる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	オリエンテーション リハビリテーション医学とは		事前:テキストp1~12予習 事後:テキストp1~12復習		1
	2	障害学_意識障害、運動障害、 感覚障害、反射、知能障害 言語障害、高次脳機能障害 廃用症候群、排尿障害 呼吸機能障害、歩行障害		事前:講義にて適宜掲示する 事後:講義の復習		1
	3			事前:講義にて適宜掲示する 事後:講義の復習		1
	4			事前:講義にて適宜掲示する 事後:講義の復習		1
	5			事前:講義にて適宜掲示する 事後:講義の復習		1
	6			事前:講義にて適宜掲示する 事後:講義の復習		1
	7			事前:講義にて適宜掲示する 事後:講義の復習		1
	8			事前:講義にて適宜掲示する 事後:講義の復習		1
	9			疾患学_関節疾患、外傷		事前:講義にて適宜掲示する 事後:講義の復習
	10	事前:講義にて適宜掲示する 事後:講義の復習				1
	11	疾患学_関節リウマチ、末梢神経傷害 内部疾患、末梢循環障害 熱傷、がん		事前:講義にて適宜掲示する 事後:講義の復習		1
	12			事前:講義にて適宜掲示する 事後:講義の復習		1
	13	疾患学_脳疾患、脊髄疾患、 脊椎疾患、神経筋疾患		事前:講義にて適宜掲示する 事後:講義の復習		1
	14			事前:講義にて適宜掲示する 事後:講義の復習		1
	15	まとめ		事前:講義にて適宜掲示する 事後:講義の復習		1
授業方法	講義中心					
評価方法	出席率、小テスト、終期テスト					
テキスト	三上真弘/監 『リハビリテーション医学テキスト』 南江堂					
参考文献	上月正博/他編 『crosslinkbasic リハビリテーション医学』 MEDICAL VIEW					
履修上の 注意事項	復習を習慣的に取り入れ臨むこと。 各講義の最後に次回講義内容を示す。事前にテキストを読み込むこと。					

開講時期	1年生 昼・夜間部 前期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	リハビリテーション概論		担当教員	市田 修一		
			実務経験	○		
実務内容	病院勤務(理学療法士)として臨床					
授業概要	リハビリテーションの理念・過程、諸領域、理学療法士の役割、社会福祉制度等、各項目について講義を中心として学習する。					
達成目標	広義のリハビリテーションについての理解を深める。医療・福祉・介護の連携について学び、リハビリテーションの中での理学療法士の役割を理解する。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	リハビリテーションの歴史、定義、目的	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習		1	
	2	QOL、バリアフリー、ハートビル法	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習		1	
	3	障害とは、ICIDH、ICF	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習		1	
	4	慢性疾患モデル、障害予防	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習		1	
	5	医療面接	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習		1	
	6	高次脳機能	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習		1	
	7	防衛機制、障害受容	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習		1	
	8	医学的リハビリテーション、理学療法プロセス	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習		1	
	9	教育的、職業的、社会的リハビリテーション	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習		1	
	10	寝たきり度、認知症度	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習		1	
	11	高齢者のリハビリテーション	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習		1	
	12	チームアプローチ、専門職	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習		1	
	13	インフォームドコンセント、装具	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習		1	
	14	社会保障制度	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習		1	
	15	介護保険制度、感染症	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習		1	
授業方法	パワーポイント、プリントを使用しての講義					
評価方法	筆記試験、小テスト、出席状況、授業態度を総合して評価する。					
テキスト	中村隆一/編 『入門 リハビリテーション概論』 医歯薬出版					
参考文献	椿原彰夫/編 『リハビリテーション総論』 診断と治療社					
履修上の 注意事項	日々の勉学が必要である。積極的に授業に参加し学習すること。他者の迷惑となるような行為は行わないこと。					

開講時期	1年生 昼・夜間部 前期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法概論		担当教員	市田 修一		
			実務経験	○		
実務内容	病院勤務(理学療法士)として臨床					
授業概要	理学療法の歴史、定義、法律、役割、対象や方法等を講義形式を中心として教授する。					
達成目標	理学療法と理学療法士について理解を深める。将来、理学療法士になるために、医療機関や福祉・保健機関、その他の機関で働く際の責任感や考察力を身に付けていく。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	理学療法の定義、各種技術	事前:教科書の予習 事後:教科書・講義資料の復習	1		
	2	理学療法の歴史、リハビリテーション	事前:教科書の予習 事後:教科書・講義資料の復習	1		
	3	理学療法士の関連法規	事前:教科書の予習 事後:教科書・講義資料の復習	1		
	4	理学療法士の役割、対象、領域	事前:教科書の予習 事後:教科書・講義資料の復習	1		
	5	臨床思考、理学療法プロセス	事前:教科書の予習 事後:教科書・講義資料の復習	1		
	6	臨床思考、理学療法プロセス	事前:教科書の予習 事後:教科書・講義資料の復習	1		
	7	理学療法士の活躍の現場	事前:教科書の予習 事後:教科書・講義資料の復習	1		
	8	理学療法士の活躍の現場	事前:教科書の予習 事後:教科書・講義資料の復習	1		
	9	理学療法士の職能	事前:教科書の予習 事後:教科書・講義資料の復習	1		
	10	理学療法士教育、フィールドワーク	事前:教科書の予習 事後:教科書・講義資料の復習	1		
	11	理学療法研究	事前:教科書の予習 事後:教科書・講義資料の復習	1		
	12	理学療法研究	事前:教科書の予習 事後:教科書・講義資料の復習	1		
	13	管理・運営	事前:教科書の予習 事後:教科書・講義資料の復習	1		
	14	リスク管理・医療事故	事前:教科書の予習 事後:教科書・講義資料の復習	1		
	15	感染予防策	事前:教科書の予習 事後:教科書・講義資料の復習	1		
授業方法	パワーポイントや配布資料を用いての講義。					
評価方法	筆記試験、出席状況、授業態度等を総合して評価する。					
テキスト	細田多穂/監 『シンプル理学療法学シリーズ 理学療法概論テキスト』 南江堂					
参考文献	石川朗/編 『15レクチャーシリーズ理学療法テキスト 理学療法概論』 中山書店 上杉雅之/監 『イラストでわかる理学療法概論』 医歯薬出版					
履修上の 注意事項	日々の勉学が重要である。積極的に授業に参加すること。他者の迷惑となるような行為は行わぬこと					

開講時期	1年生 昼・夜間部 通年		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法基礎実習		担当教員	専任教員		
			実務経験			
実務内容						
授業概要	医療・福祉・保健機関におけるの見学実習を行う。					
達成目標	治療場面の見学等を通して、理学療法業務の概要と対象者の全体像を知る。 測定会を通して、検査測定の実験を積み、基本的な検査測定ができる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	実習前オリエンテーション①	事前:実習要項、感染症ガイドラインを熟読 事後:実習内容復習			2
	2					
	3	実習前オリエンテーション②	事前:実習要項、感染症ガイドラインを熟読 事後:実習内容復習			2
	4					
	5	スタンダードプリコーション	事後:復習			1
	6	見学実習	事前:実習準備 事後:実習振り返り			4
	7					
	8					
	9					
	10	実習後HR	事前:提出物準備			1
	11	実習FB、実習報告書FB	事後:実習報告書修正			1
	12	測定会(検査測定)	事前:理学療法評価学Ⅰ・Ⅱ復習			4
	13					
	14					
	15					
授業方法	オリエンテーション、実習、測定会					
評価方法	出席率、提出課題、臨床指導者評価を基に各担当教員が評価を行う。					
テキスト	特に定めず					
参考文献						
履修上の注意事項	見学実習施設の職員、指導者の指示に従い、本校学生の立場をわきまえ行動すること。					

開講時期	1年生 昼・夜間部 後期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法評価学 I		担当教員	市田 修一、川瀬 和太 久保 明裕、高橋 美和		
			実務経験	○		
実務内容	病院勤務(理学療法士)として臨床					
授業概要	理学療法評価総論、生理機能検査、形態測定、脳神経検査、疼痛評価、深部腱反射、高次脳機能についての学習を実技を含めて行う。					
達成目標	理学療法評価の意義・分類・目的を理解する。検査・測定技術を習得し、正確に実施できる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	総論(ポートフォリオ説明・講義)	事前: 講義内容の予習 事後: 講義内容の復習			1
	2	総論(講義)	事前: 講義内容の予習 事後: 講義内容の復習			1
	3	総論(講義・オリエンテーション)	事前: 講義内容の予習 事後: 講義内容の復習			1
	4	バイタルサイン測定(講義・実技)	事前: 講義内容の予習 事後: 講義内容の復習			1
	5	バイタルサイン測定(講義・実技)	事前: 講義内容の予習 事後: 講義内容の復習			1
	6	バイタルサイン測定の実技練習	事前: 講義内容の予習 事後: 講義内容の復習			1
	7	形態測定(講義・実技)	事前: 講義内容の予習 事後: 講義内容の復習			1
	8	形態測定(講義・実技)	事前: 講義内容の予習 事後: 講義内容の復習			1
	9	形態測定の実技練習	事前: 講義内容の予習 事後: 講義内容の復習			1
	10	脳神経検査(講義)	事前: 講義内容の予習 事後: 講義内容の復習			1
	11	疼痛評価(講義)	事前: 講義内容の予習 事後: 講義内容の復習			1
	12	深部腱反射(講義・実技)	事前: 講義内容の予習 事後: 講義内容の復習			1
	13	高次脳機能(講義)	事前: 講義内容の予習 事後: 講義内容の復習			1
	14	実技練習	事前: 講義内容の予習 事後: 講義内容の復習			1
	15	(オリエンテーション・バイタルサイン測定 ・形態測定・腱反射測定)	事前: 講義内容の予習 事後: 講義内容の復習			1
授業方法	講義と実技形式にて実施。					
評価方法	筆記試験、実技試験、出席率、授業態度を総合して評価。					
テキスト	潮見泰藏/他編 『リハビリテーション基礎評価学』 羊土社 田崎義昭/他著 『ベッドサイドの神経の診かた』 南山堂					
参考文献						
履修上の 注意事項	実技時は、正確に修学できるように半袖・半ズボンで出席すること。 実技の実施日については、その都度 連絡します。					

開講時期	1年生 昼・夜間部 後期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法評価学Ⅱ		担当教員	市田 修一、久保 明裕 岡林 豊、井口 奈保美		
			実務経験	○		
実務内容	病院勤務(理学療法士)として臨床					
授業概要	この授業の目的は、ヒトの身体動作を発現するために必要な関節機能と骨格筋機能を評価するために、「関節可動域測定法」と「徒手筋力測定法」について学ぶ。					
達成目標	①関節可動域測定法と徒手筋力測定法の基本技術を独力で実践できる。 ②関節可動域測定法と徒手筋力測定法の結果を解釈できる。 ③関節可動域測定法と徒手筋力測定法の結果と身体動作の関連を考察できる。 ④検査測定をする上でリスクについて想起し、対応できる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	オリエンテーション	事前:関節運動を表す語句の整理、 運動面と軸の整理		1	
	2	肩関節の可動域測定	事前:肩関節の構造、骨格筋の整理 事後:肩関節の可動域測定法の整理		1	
	3	肘関節、手関節の可動域測定	事前:肘・手関節の構造、骨格筋の整理 事後:肘・手関節の可動域測定法の整理		1	
	4	股関節の可動域測定	事前:股関節の構造、骨格筋の整理 事後:股関節の可動域測定法の整理		1	
	5	膝関節、足関節の可動域測定	事前:膝、足関節の構造、骨格筋の整理 事後:膝、足関節の可動域測定法の整理		1	
	6	頸部の可動域測定	事前:頸部の構造、骨格筋の整理 事後:頸部の可動域測定法の整理		1	
	7	体幹の可動域測定	事前:体幹の構造、骨格筋の整理 事後:体幹の可動域測定法の整理		1	
	8	肩関節の筋力評価	事前:肩関節の構造、骨格筋の整理 事後:肩関節の徒手筋力測定法の整理		1	
	9	肘関節、手関節の筋力評価	事前:肘・手関節の構造、骨格筋の整理 事後:肘・手関節の徒手筋力測定法の整理		1	
	10	股関節の筋力評価	事前:股関節の構造、骨格筋の整理 事後:股関節の徒手筋力測定法の整理		1	
	11	膝関節、足関節の筋力評価	事前:膝、足関節の構造、骨格筋の整理 事後:膝、足関節の徒手筋力測定法の整理		1	
	12	頸部の筋力評価	事前:頸部の構造、骨格筋の整理 事後:頸部の徒手筋力測定法の整理		1	
	13	体幹の筋力評価	事前:体幹の構造、骨格筋の整理 事後:体幹の徒手筋力測定法の整理		1	
	14	総練習	事前:全ての可動域測定法の練習		1	
	15	総練習	事前:全ての可動域測定法の練習		1	
授業方法	検査方法の基本事項を講義で説明し、実技にてその方法を実践する。					
評価方法	筆記試験、実技試験、授業態度、出席率、ポートフォリオ作成・提出にて評価する。 関節可動域、徒手筋力検査法の各分野の終了時点で、実技試験を実施する。					
テキスト	Dale Avers/他著 『新・徒手筋力検査法』 協同医書出版社 齋藤慶一郎/著 『ROM測定法 代償運動のとりえ方と制動法の理論と実践』 MEDICAL VIEW					
参考文献	潮見泰藏/他編 『リハビリテーション基礎評価学』 羊土社					
履修上の 注意事項	実技が中心となるので、動きやすい服装になること。					

開講時期	1年生 昼・夜間部 通年		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	レクリエーション		担当教員	木下 拓真、他		
			実務経験			
実務内容						
授業概要	各種ボランティア活動、体育祭への参加。 介護保険施設で実施されている集団体操やレクリエーションを紹介するとともに、グループに分かれ学生自らが考案したものを実施してもらう。					
達成目標	信頼関係の構築と協働作業の実践ができる。 個々の特性を理解したうえで目標達成する能力を養う。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	各種ボランティア活動				
	2					
	3					
	4					
	5	体育祭				
	6					
	7					
	8					
	9					
	10	集団体操とレクリエーションの意義について	事後:意義について復習			1
	11	介護保険施設で実施されている集団体操の実際	事後:介護保険について復習			1
	12	高齢者レクリエーションの実際	事後:レクについて復習			1
	13	グループワーク(上肢の体操)	事前:上肢の筋について予習 事後:上肢の運動について復習			1
	14	グループワーク(下肢の体操)	事前:下肢の筋について予習 事後:下肢の運動について復習			1
	15	グループワーク(体幹の体操)	事前:体幹の筋について予習 事後:体幹の運動について復習			1
授業方法	集団指導、実技指導					
評価方法	出席率、授業態度、レポート提出等					
テキスト	なし					
参考文献	疾患別リハビリ体操、介護予防リハビリ体操					
履修上の 注意事項	学生全員が参加できるように配慮する。					